

MRI・CT 造影剤の説明と同意書

《目的》

- ・MRI・CT 検査時に血管や病変部を見やすくする薬（造影剤）を注入することで、より詳しい情報が得られ、診断や治療方針を決めるために役立ちます。
 - ・造影剤の使用により副作用（発疹、吐気、動悸、ショック等）が起こる場合があります。副作用は使用した直後に発生するものと1～7日後に発症する遅発性のものがあります。また1回目で発症しなくても2回目で発症する場合があります。検査の重要性と副作用の起きる可能性があることを理解したうえで検査を受けていただきたいと思います。考えます。
- また、同意がない場合でも、今後の治療において不利益が生じることはありません。

《造影剤で起こりうる副作用と発生率》

- ・じんま疹や気分不快などの軽い副作用 100人に5人程度
- ・血圧低下やショック、まれに心停止などの重篤な副作用 10万～20万人に1人程度
非常に低い確率でショックや心停止の結果、死亡に至ることもあり得ます。
- ・かゆみや吐気、下痢、めまい、動悸などの遅発性副作用 100人に5人程度
- ・腎臓病のある方や透析を受けている方は腎機能が急性増悪する場合があります。
必ず主治医に申し出てください。

《飲み薬》

- ・CT 造影剤を使用する場合、糖尿病の治療薬（ヒグアナイド系）を服用されている方は、検査前後48時間内服を中止する必要があります。これはCT用造影剤の投与により一過性の腎機能低下をきたす可能性があり、その結果治療薬の副作用が増強する可能性があるためです。

《検査前問診》

- ①今までに気管支喘息と言われた事がありますか？ はい ・ いいえ
- ②現在、腎臓の病気で治療や投薬をうけていますか？ はい ・ いいえ
- ③造影剤の副作用歴はありますか？ はい ・ いいえ

《検査前腎機能》 eGFR 値： 検査日 年 月 日 → 45以下は検査不可

施設 _____

説明医師 _____

私は、上記の内容について十分な説明を受け、了解しましたので実施に同意致します。

年 月 日

戸塚共立いずみ野病院 殿

患者氏名 _____

保護者または代理人氏名 _____ (続柄 _____)